

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品

1. <岩手県 パン >
原材料費や光熱費などの大幅な上昇が続く、価格転嫁では支えられない状況になっている。加えて、迫られる人件費アップへの対応も懸念材料である。
2. <富山県 パン >
暑さの影響で売上が減少している。原材料価格の値上がりが止まらず、今年に入ってから数回値上がりがあり、価格転嫁のタイミングに苦慮している。
3. <京都府 パン・菓子 >
販売価格は上昇しているが、原材料価格や人件費、配達費も上昇しており利益に結びつかない。円安の影響もあり苦しい状態が続いている。また、人が集まらないため、外国人の雇用を検討し始めている。
4. <山口県 パン・菓子 >
猛暑により外出を控える傾向にあり、ケーキや生菓子類の買い控えが続いている。一方、米の価格が上昇する中で、もち米は前年の金額で契約を締結することができ安心している。
5. <愛媛県 菓子 >
御中元商戦は昨年に引き続き厳しく、猛暑の影響もあってか、常温可能な菓子の売行きが特に低迷している。小規模経営の店においては、この暑さでかき氷やアイス以外の商品は売上が上がらず困窮している。
6. <長崎県 麺類 >
価格転嫁を進めており、販売価格については概ね前年を上回っている。しかしながら、販売数量が減少傾向にあり、値上げ分が直ちに売上及び収益の改善につながっていない。

繊維工業

7. <秋田県 繊維 >
加工賃金が低い海外での生産へシフトしやすい職種であるため、メーカー側から直接の値引きはないが、加工賃金を上げると安いところに仕事が流れるという間接的な値引き交渉が常態化している。
8. <富山県 絹人織織物 >
原材料価格の高騰や物価の上昇により、収益は厳しい状況が続いている。価格を引き上げることで受注の減少に繋がることが予想されるため、価格転嫁が思うように進んでいない。
9. <福井県 織物工業 >
衣料、スポーツ、産業資材など分野を問わず在庫調整局面となり、先行き不透明感が増している。海外市場、国内市場とも明るい材料が見当たらず、発注もスポット的なものが増えてきたとの声もある。
10. <京都府 染色整理 >
消費者の節約志向も高まり、和装需要の縮小が加速して安定した受注が見込めない中、採算性が悪化している。また、職人の高齢化・引退により、生産体制が更に弱体化しており将来が見通せない。
11. <岡山県 織物 >
輸出に関しては、中国経済の後退局面等による消費意欲の減退が顕著で、高価格帯の商品の受注が厳しい状況。さらに原料の綿花、綿糸、燃料等がほぼ輸入品ということで、円安も苦境に拍車をかけている。
12. <愛媛県 タオル >
今治タオルブランドを含むタオル業況は引続き芳しくない。物価高の影響もあってか、ギフトを中心とする別注商品の受注状況は悪く、好転材料が見当たらないため、不透明感が強い。

木材・木製品

13. <青森県 製材 >
新築住宅の着工率が低下し、県産材の利用がままならない状況が続いている。青森ヒバの丸太も売れ行きが悪く、一般材の在庫が残っている。業界としては、早く国有林から新材が出材されることを期待。
14. <岩手県 一般製材 >
県内の新設住宅着工戸数は、前年同期と比較して約30%減と大幅に減少し、製材品の荷動きが悪い状況が続いている。製材品の価格については横ばい状況が続いているが、原木価格は下降気味にある。
15. <福島県 製材 >
原木の出材は梅雨時期のためやや減少し、価格も弱含みの取引となった。製品の荷動きも全般に鈍い状況が続いており、価格も弱含みとなっている。

16. < 栃木県 木材・木製品 >
戸建住宅の需要は全体として低調。国産木材の価格は下げ止まっているが反転の兆しは見えていない。外国産木材について円安の影響により一部値上りが見られるが、全体的には価格転嫁は出来ていない。
17. < 神奈川県 家具 >
急激な上昇は一服したとはいえ、円安の進行により原材料の値上げが収支を圧迫している。国産材（シナなど）への切り替え、ラワンからポプラ材への切り替えなど知恵を出している。
18. < 熊本県 一般製材 >
住宅着工件数の減少により木材市場の原木の入荷自体も減っており、在庫が無く活気に乏しい。人吉市内の災害後の復興住宅を見てもマンション系のコンクリートが多く、木材が使われていない。

紙・紙加工品

19. < 茨城県 段ボール >
大手企業は回復傾向にある中、中小企業も少しずつ生産量は戻りつつあるように感じられる。このまま景気が良くなり生産量が増えることを期待するとともに、収益の改善に向けて価格転嫁に取り組む。
20. < 東京都 紙製品 >
インバウンド需要は依然好調。また、文具紙製品業界では、卸売業を中心に夏期見本市や展示会が数多く実施されており、コロナ禍前の状況に戻った。
21. < 愛知県 紙器・段ボール >
夏のボーナスや減税効果もあり、日用品向けの取引が少しずつ回復し夏向け商品も上向きである。全体的には6月と比べて明るい兆しが出てきている。
22. < 岐阜県 機械すき和紙 >
サプライチェーン間にある在庫が消化されつつある。紙業業界は、業者間の差はあるものの、売上高が増加し、収益状況も好転してきた。
23. < 三重県 古紙 >
製紙会社からの製紙原料古紙の発注は前年並みであるが、同業者も含め古紙の在庫は殆んど無く古紙の集荷も一部の業者を除いて少ないとのことで、輸出価格の高騰が懸念される。
24. < 高知県 機械すき和紙 >
紙製品全体では販売量・販売金額・生産量ともに昨年同月比で少し下回っているが、持ち直しつつある。その中で、衛生用紙のティッシュ・トイレットが、販売量・販売金額ともに昨年同月比で上回っている。

印刷

25. < 秋田県 印刷 >
7月は年度変わりの繁忙期も過ぎて印刷の需要は低下している。7月に一部原材料の値上げがあったが、価格転嫁は進んでおらず収益を圧迫する状態が続いている。
26. < 富山県 印刷 >
売上の増加は販売価格の上昇によるもので、生産高の増加による市場の伸びからではない。競争激化の中で顧客を確保しなければならないため、十分な価格転嫁が出来ず、収益の悪化傾向が常態化している。
27. < 石川県 印刷 >
先月と同じく薄物印刷（チラシ、パンフレット等）の印刷需要は、低迷した状態となって回復の兆しすら見えないといった状態である。印刷用紙、印刷用の判材、インキ関係の需要も減っている。
28. < 鳥取県 印刷 >
慣例的な印刷需要の減少とデジタル化の進行が続いている。例月に比べ見積もりが多く発生したものの、夏期は年間を通じての収益の波が大きいことが課題（夏枯れ）。
29. < 徳島県 印刷 >
7月に入っても好材料は少なく、苦しい経営状態が続いている。紙離れの歯止めがかからず、昨年受注した仕事在今年はなくなったり数量を少なくしたりと明るい兆しが全く見えない状態である。
30. < 鹿児島県 印刷 >
印刷業界における景気動向の指標のひとつでもある印刷機械洗浄のための洗い油について、組合の共同購買事業における各事業所からの注文が例年に比べて極端に減っている。

化学・ゴム

31. < 岐阜県 プラスチック製品 >
前月と状況は変わらない。原材料価格は7月より上がったが、原材料の値上がりの製品への転嫁だけでなく、労務費や物流2024年問題などによる製品の値上げに取り組んでいる。
32. < 奈良県 プラスチック製品 >
受注状況は改善しているものの、依然として材料費やエネルギーコストが利益率の減少を引き起こしている。さらなる製品単価のアップを要求することに苦慮しており、従業員への待遇の改善ができていない。

33. **<大阪府 セロイド・プラスチック製品 >**
 売上高、受注については復調しているが、原材料や燃料高による製造コストのアップにより収益に影響が出ており、経営状況は悪化している。
34. **<兵庫県 ゴム製品 >**
 秋冬物商戦の受注状況は全体的に厳しい。消費者の買い控え傾向にあると思われる。相変わらずコストが嵩んでいるが、価格転嫁も思うようには進まない状況にある。
35. **<岡山県 ゴム製品 >**
 一部自動車メーカーの減産も解消に向かってはいるものの、7月単月では依然売上は前年比マイナスとなっている。お客様へ人件費上昇分の値上げ要請中である。
36. **<広島県 プラスチック製品 >**
 自動車産業の生産量は前月比では上昇してきたが、円安の流れが止まり、急激な円高傾向により、自動車産業を中心とした輸出産業からの受注量の急ブレーキが危惧される。

窯業・土石製品

37. **<北海道 砕石 >**
 販売価格はある程度上昇しているが、売上減や人件費、運賃などのコスト増により、特に砂利採取に特化している企業の経営は非常に厳しい。
38. **<宮城県 生コンクリート >**
 7月の生コン出荷量前年同月比では95.4%と減少し、需要の低迷が長期化している。多くの地区で値上げが進んでいるが、値上げ後の単価が適用される新規契約が少なく、収益改善効果は一部に留まっている。
39. **<埼玉県 窯業・土石製品 >**
 第一四半期は近年にない低調な出荷で、7月も同様に低迷。工事案件が具体化してこないと厳しい。具体化した物件もあるものの、着工に至っておらず、出荷に結びつかないのが現状である。
40. **<千葉県 生コンクリート >**
 原材料費、人件費、設備投資など、すべてコストアップとなり経営を圧迫している。生コン価格への転嫁が追い付かない。さらなる値上げが急がれる。
41. **<山梨県 骨材・石工品等 >**
 生コンクリート向け製品の売上は前月比10%増加したが、全体の売上は前年同月と比べて▲9%であった。組合員は各社で価格転嫁の交渉を続けているが、全社が単価アップを達成できている状況ではない。
42. **<香川県 石材加工 >**
 屋外作業者にとっては非常に厳しい夏となりそうである。受注も伸びず産地全体が静かである。新たに販路を拡大するためにSNSを利用して販売に活路を見いだしたいと考え、組合主催の勉強会を計画している。

鉄鋼・金属

43. **<宮城県 機械金属 >**
 製造業や卸売業は需要回復が見られるものの、景況感はあまり良くない。労務費を含むコスト増に対する価格転嫁が十分にできておらず、先行きに慎重な見方が続く。
44. **<千葉県 鉄工 >**
 価格高騰により発注を手控える状態が続いており、総じて売上は低迷している。比較的好調であった北米向け製品の売上についても減少し始めている。
45. **<大阪府 鍛造 >**
 先月までは回復傾向が見られたものの、今月が大幅なダウンとなり、生産量において20%弱の前年割れとなった。特に自動車用が不正問題の影響等で10%程度の前年割れとなり全体的に先行き不透明である。
46. **<福岡県 金属製品 >**
 現状横ばいで推移しているが、秋頃から売上減少見込み。各種価格が高騰しており内部での改善活動の活発化が必須。人に関しても自動化を進め、作業効率を向上させていく必要がある。
47. **<大分県 鉄鋼 >**
 大型受注は減少しているが受注量は増加しており、大型案件の見積依頼も増加している。また、半導体や大型装置関連、設備メンテナンス等の受注は増加しており、今年度の売上・利益増加に期待している。
48. **<鹿児島県 金属製品 >**
 全国的に鉄骨需要の低迷が長引く中、仕事量の減少により受注価格は下落傾向である。鋼材や副資材等の価格上昇分の転嫁も追いつかず景況感が悪化している。

一般機器

49. **<秋田県 金属加工 >**
 7月の受注量は、地元の主要取引先からの受注減少により、前年同月比70~80%となった。なお、資金繰りも悪化してきており、夏季賞与の支給は全社ともに前年同月よりも減額となった。

50. <茨城県 生産用機械 >
 団地全体の売上高は、主要取引先からの受注の減少が続いていることを主要因として、5カ月連続で前年同月比で減少となっている。また、派遣社員数は前年同月比で大幅に減少している。
51. <新潟県 機械器具 >
 中小・小規模企業ではコストアップの中で厳しい経営環境が続いている。受注は少し改善の動きは見られるものの限定的なもので、基本的には変わらず盛況な動きはなく、先の見通せない状況に変わりにない。
52. <山梨県 業務用機械器具 >
 前年同月と比べて売上は▲20%、収益状況は▲18%となった。諸物価の高騰によって十分な収益確保が困難な状況が続いており、業界全体で景況感が低迷している。状況が改善する見込みも薄い。
53. <石川県 機械工作钣金加工 >
 売上が減少しており、今後の対応を検討している企業が多い。材料費等の値上げに対する価格転嫁交渉は一部で進んでいる様であるが、コストダウンとの兼ね合いもあり厳しい状況だと思われる。
54. <兵庫県 生産用機械器具 >
 量産品である物流機器の売上は計画値を上回っているが、大型案件については現時点では計画未達。ただし、8月から9月にかけて大型案件の売上を予定しており、上半期ではともに計画値を上回る見込み。

電気機器

55. <埼玉県 電気機器 >
 新規事業に動きがあり、人が必要となってきた。ただ、長期に安定するかがわからないため、パート等の採用にとどまっている。設備操業度も上がり、良いフェーズに入ってきたと期待している。
56. <長野県 電子機械器具 >
 全体的には業況は少し回復傾向にあるが、大多数の企業が今後の見通しが不透明であり、回復までに時間を要する。
57. <山梨県 電気機械器具 >
 前年同月と比べて収益状況は10%好転した。半導体製造装置の関連で約2年ぶりにリピート品の注文が入ってきている。これが一過性のものなのか、この先も続くのか、2~3カ月様子を見ないと判断できない。
58. <静岡県 電気機械器具 >
 7月の生産では、家庭用エアコンは猛暑の影響もあり久しぶりにプラスに転じた。業務用エアコンは回復基調にあるが前年並みとなった。今後の天候の推移に注目している。
59. <富山県 電子部品・デバイス >
 電子部品の需要予測は若干好転してきている。仕入れコストの上昇は一服してきた感があり、収益状況はわずかながら改善の兆しがある。自動車関係は、電動車向けの新製品開発の引き合いが増加している。
60. <兵庫県 電子部品・デバイス >
 7月の国内自動車販売台数は、各自動車メーカーの新型車の販売及びデータ試験不備のあったメーカーの生産再開により、前年同月比6.9%増と7カ月ぶりに前年を増加した。このため、7月は前月比増加した。

輸送機器

61. <愛知県 輸送機器 >
 景気は緩やかに持ち直しているとは言うものの、生産動向は一向に良くならない。原材料価格や物価の高騰、為替の変動等複合的な影響もある中で限界に達しており、人件費の増加などが追いついていない。
62. <三重県 輸送機器 >
 中国の景気回復には時間がかかりそうで、当面厳しい状況が続くそうである。物量減少により残業時間も減少しており、生活費への影響があるなど、消費への悪影響も見える。
63. <兵庫県 輸送用機械器具 >
 前年同月比43%の減収。部門別には機械36%、精密機械部門20%、船舶も28%と軒並み減収であった。昨年7月は突出した売上高であった為、単純比較することは出来ないが、今夏の売上推移を注視したい。
64. <島根県 自動車部分品・付属品 >
 7月の売上額は前期比で1%の減となった。前年と比較するとほぼ横ばいの状況。材料費等の高騰により収益状況は悪化している為、対策として価格転嫁対応を進めている。
65. <愛媛県 造船 >
 元請け会社は当面の仕事を確保しており、組合員においても仕事量が増加している。企業規模により状況は異なるものの、マンパワーが不足しているという組合員が多く、人材確保に力を入れている。
66. <長崎県 輸送機器 >
 防衛費増額に伴う海上自衛隊の工事量増大を期待していたが、いまだ実現していない。米軍艦船で、一隻で行われるすべての工事を一括で入札する案件が出てきたが、落札できる業者は大手造船所に限られる。

その他の製造業

67. <千葉県 採石 >
年々出荷量が減少する中、今月も石材出荷は前月と同様に全くなく、3カ月連続ゼロとなった。今後予定される東京湾の新海面処分場の護岸工事、横浜港の新本牧地区の護岸工事に期待する。
68. <愛知県 アウトソーシング >
自動車メーカー各社、生産計画通り推移せず、生産に関わる人材供給が不安定で、残業も見込めず転職者も増える傾向。また、人材のだぶつきもみられるようになってきた。
69. <富山県 漆器 >
国内外の観光客が市内の観光施設に訪れ、伝統工芸品のものづくり体験の予約の増加や海外観光客が商品を購入する姿が多く見られる。
70. <石川県 漆器 >
復旧が進んでいない中、仮設住宅への入居で輪島に戻る職人が少しずつ増えているが、仮設工房の完成が遅れていることで、まだまだ製造作業が回復に至っていない。また復興に対する補助金も進んでいない。
71. <奈良県 毛皮革 >
毛皮加工の定番商品は注文が入っているが、数量は減少傾向にあり、納期については短期間となっている。加工単価については、燃料や副資材などの価格高騰の影響もあるので、引き上げ交渉している。
72. <兵庫県 その他 >
OEMで遅れていた納期分も何とか納入でき、順調な生産に落ち着いてきた企業が多い。新たなサンプル作製などで新しい仕事も増えてきた企業もある。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 各種商品 >
繊維卸は先月後半より定額減税効果と思われる一時的な需要喚起があり、消費が動いてきた。今月に入り、猛暑酷暑でサンダルなど昨年を超える動きになっている。
74. <山形県 各種商品 >
食料品関連は、外食を減らす、消費を控える等の行動により出荷の落込みや売上の減少につながっており、建材の出荷に関しては、建設費の上昇を理由に設備投資を手控える動きも目立ち落ち込んでいる。
75. <東京都 木材 >
木材の荷動きは引き続き低調。輸入材は、円安やコンテナ関連の取引条件悪化により高騰。国産材への代替が増加傾向。プレカット工場の稼働率も悪化しており、値下げ要請も強い。
76. <広島県 総合 >
4月以降、物流の2024年問題の影響から組合員の物流面での対応が厳しさを増しており、コスト増による収支悪化や企業間連携の遅れから売上の減少が見受けられるようになってきている。
77. <熊本県 各種商品 >
組合員の中でも業種を問わず数社が建物増築の計画がある。在庫数量が全体的に多くなっているため、倉庫の増築が喫緊の課題とのこと。建設資材関連卸は倉庫物件の建設工事が多くなり持ち直した感がある。
78. <沖縄県 各種商品 >
仕入れ価格の上昇分を販売価格へ転嫁しているのが売上高の増加に繋がっている側面もある。販売数量での大幅な増加は見られないが、全体的にはコロナ禍前に戻りつつあるのではないかと意見も聞かれた。

小売業

79. <宮城県 家電 >
地域電気店では、ボーナス支給後という事もあり家電の売れ行きが好調だ。特に今年も早くから気温が高いことから、省エネ性の高い機種が中心に売れている。
80. <栃木県 花・植木 >
高温のため花材を在庫することが難しい。国産花材確保にも影響があり、輸入花材に頼るが、月中頃からこちらも高騰。前年より1.5倍。8月はお盆花材の確保や収益確保についても不安。
81. <群馬県 花 >
7月は例年動きが鈍い月だが、今年は猛暑の影響から例年にも増して各個店とも店頭販売に苦戦した。一方、祝賀会や講演会に伴う花の需要はコロナ前に戻った様子。
82. <静岡県 野菜・果実 >
酷暑と雨の少なさが原因で全般的に価格が高騰している。特に売れ行きの高いジャガイモ、にんじん、玉ねぎの本州産の時期が終わり、北海道産へと切り替わるタイミングと重なり、出荷量自体が少ない状態。
83. <岐阜県 中古自動車販売 >
自動車メーカーの認証不正問題の影響で納期の延期が続いている。併せて、為替の影響で輸出業者による落札が増加しており、良質な中古車の相場が上がってしまい、店舗への展示が難しくなっている。
84. <山口県 機械器具 >
例年であれば、エアコン販売、取付・修理の需要はお盆までであるが、今年はお盆を過ぎても予約一杯で、大変忙しい。しかし、手間がかかる仕事の方が多く、売上になかなか繋がらない。

商店街

85. <福島県 商店街 >
月を追う毎に業況は悪くなっていくように感じる。飲食店は増えていっているが、客が目に見えて減っている。夜間は若者の姿も見られるが、昼が厳しい。常連の客のみで新規が増えず厳しい状況。
86. <新潟県 商店街 >
商店街は相変わらず人通りが少なく閑散としている。お客様の財布の紐が緩まず節約志向が強いのかもしれない。人の流れが出るお盆に期待する。
87. <奈良県 商店街 >
猛暑日が続く外出を控えているのか、人の流れが少ない。夏休みに入ったので、駅や駅周辺のホテルに宿泊する旅行者が商店街を利用する機会が多くなることを期待する。

88. <香川県 商店街 >
7月は雨の日が多く3週間までは当商店街の人の出が悪かった。熱中症警戒アラートが連日のように発表されていたが、夏休みに入って子ども連れも20日頃からは多く見受けられるようになった。
89. <長崎県 商店街 >
7月前半の梅雨、後半の猛暑と厳しい天候であったため、お客様の出足は鈍かった。インバウンドによる効果も期待値より低く、全般的に景気は停滞ぎみであった。
90. <大分県 商店街 >
7月は下旬にかけて酷暑の影響で商店街への人出が少なくなった。不要な外出自粛が響いている。イベントなどはそこそこ人を集めているが、街を回遊しない状況である。

サービス業

91. <山形県 情報処理 >
開発系の仕事に関して案件はあるが、コストが安く抑えられていて苦しんでいる。資金繰りに関してもコロナでの融資の返済が始まり、厳しい状況が続くそう。
92. <和歌山県 ガス >
ガス器具販売が消費者の買い控えで思うように進まず苦戦している状況の中、来月よりガス衣類乾燥機無料モニターキャンペーンを開始予定。ガスの仕入価格は依然下落せず、収益の悪化が続いている。
93. <徳島県 旅行 >
お客様の年齢層が高齢の方が多くなり、観光地等を歩くのを嫌がるため、旅行計画が難しくなっている。また、旅行申込み参加人数が少なくなり、バス代も高くなっている為、旅行を控える傾向にある。
94. <高知県 飲食 >
当月の売上高は3カ月連続で前年同月を下回った。前年度同月に比べ、光熱費や仕入価格は高騰し人件費も上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
95. <佐賀県 美容 >
猛暑のため、カットの需要が増えている。一方コロナ感染症にまつわる予約の取り消しなど、売上に多少の影響がある。美容室における衛生管理について今一度気を引き締めてもらうよう周知したい。
96. <沖縄県 ホテル・旅館 >
7月は天候に恵まれ、夏休み前の3連休、特に中北部は、イベントなどの影響で満室日も続いた。一方で、依然として人手不足による稼働を抑えた営業をせざるを得ない施設もある。

建設業

97. <青森県 管工事 >
民間工事の仕事量は減少。業界全体の仕事量を事業者数に対する稼働率と考えた場合、50%より少ない状況と思われる。今後、業界は全体的に縮小され、事業継続に向け新たな決断を余儀なくされると感じる。
98. <岩手県 土木工事 >
7月度の出荷数量は、昨年対比で71%と減少した。公共工事、民間工事ともに物件数が少なく低調である。出荷数量は今後も低調が続くと予想され、厳しい状況が続くものと思われる。
99. <福島県 建設 >
土木工事の受注件数や金額が前年より減少している。住宅着工件数の減少傾向が継続しているほか、地元建設業が請け負うのに適当な規模の工場、倉庫、マンション等の建築工事がかなり減少している。
100. <長野県 設備工事 >
時間外労働への対応の厳しさが現れ始めている。なるべく時間外が発生しないように努めた結果、工事期間が長くなり、委託賃金等も値上がりしていることで、今までより収益が減少している。
101. <滋賀県 総合工事 >
主要な建設資材の需給動向は均衡状態、また価格は横ばい（高止まり）状況が続くも、販売価格への転嫁が不十分な状態。また社員や下請企業に対する人件費のアップもあり利益の確保に苦心している。
102. <京都府 職別工事 >
先月同様、工事量は増加傾向にある。しかし、建設業下請の中小事業・個人事業主は適正な労務単価や請負金額は受け入れてもらえず、仕入材や経費の増加により収益率も悪くなっている。

運輸業

103. <栃木県 貨物自動車 >
当組合の主であるアルミコイル輸送では、未だに荷主側の生産が増加せず少ない状況である。日用品での小口配送などは増加していることから、ドライバーの労働時間管理に苦慮している。
104. <大阪府 貨物 >
一般顧客および法人顧客からの見積り問い合わせ件数及び受注件数は前年に対し減少し、そのため売上高も減少となった。引越資材や外部への発注費用が増加した結果、収益はやや悪化となった。

105. < 島根県 道路貨物 >
製造業関係では原材料等の高騰による収益悪化、公共投資・住宅着工件数の減少、国内消費の伸び悩み等による影響を受け、国内貨物量が落ち込んでおり、荷動きは前月に続き低調に推移した。
106. < 山口県 一般貨物自動車 >
荷物運送量・倉庫保管量ともに増加。特に長距離輸送の案件が少し増加している模様。保管・輸送のセット依頼も増えている。依然として人員は不足しており、この時期に雇用を進めておきたい。
107. < 佐賀県 貨物 >
7月は飲料品などの荷動きは良かったものの、全体的には良くなかった。運賃は荷物が減少すると下落傾向となるため、九州発の長距離は少し減少したが、関東方面からの帰り荷の運賃は上昇傾向にあった。
108. < 宮崎県 軽貨物 >
7月度は、以前からすると荷動きが停滞した状態で推移している。諸物価及び燃料代等の値上がり等が影響しているように思う。運賃関係も値上げ交渉はするものの改善することが厳しい環境だ。

その他の非製造業

109. < 群馬県 不動産 >
物価の上昇に伴い、建売住宅の価格が以前より上昇している中、今後、住宅ローン金利上昇の可能性もあり、動向を注視している。
110. < 神奈川県 質屋 >
業界全体については、年初より質融資の件数は多かったが、ここにきて高額商品よりも低額の質融資が増えてきており、レジャー資金より生活費の工面を目的にした質屋の利用になってきたことを感じる。
111. < 新潟県 砂利採取 >
7月度の骨材生産量は、前年同月比で118.1%、前年累計比で110.1%であり、ようやく目標の前々年の需要に近づいてきたが、下半期に国交省発注の河川工事によるダンプトラック不足が懸念される。
112. < 兵庫県 物品賃貸 >
夏季休暇前のイベント等の受注を受けて売上高は維持できたものの収益率は低迷している。人材不足、資材高騰、高温多湿による労働環境の悪化による影響と思われる。
113. < 岡山県 信用組合 >
コロナ融資の取扱いが終了し、その他の融資により柔軟な資金繰り支援対応を行った。原材料高騰の影響は7月以降も続いており資金繰り支援を中心とした事業者支援を図っていく。
114. < 広島県 不動産 >
不動産市場については、マンション販売が一時期に比べ鈍化している。これからの新築マンション価格は建築資材の高騰や人手不足の影響によるコスト上昇により販売価格がさらに上昇することが見込まれる。